かけはし

会報 66 号　発行:特定非営利活動法人全国LD親の会　　発行人:内藤　孝子
事務局:〒 151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

特定非営利活動法人 JPA LD 全国LD親の会

特定非営利活動法人 全国ＬＤ親の会　第 3 回総会　および 第9回全国LD親の会公開フォーラムを 開催します

第 3 回総会および第 9 回全国 LD 親の会公開フォーラムを下記の通り行います。なお、総会議事案書等については 5 月上旬に別途発送します。総会に引続き、研修会、懇親会を行います。

●第 3 回総会

日　時:2010 年 6 月 19 日（土）
12:00 ～ 13:15（受付 11:30～）
会　場:国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 研修室 401
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号

●研修会

日　時:2010 年 6 月 19 日（土）
14:45 ～ 16:45（受付 14:15～）
会　場:国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 研修室 401

講　師:中田洋二郎（立正大学）
テーマ:家族支援 -親の障害の受容-

子育てにはストレスがつきものですが、発達障害のある子どもを育てていくには、学校教育での心配、進学、就労に関しての心配と精神的ストレスが長期間におよび、迷いながらの子育てが続きます。そんな中、親の会でよく話題になることのひとつに、親の「障害の受容」があります。今年度の研修会では、中田洋二郎先生を講師にお招きし、先生の臨床と研究のテーマである親の「障害の受容」についてご講演いただきます。

●懇親会

日　時:2010 年 6 月 19 日（土）
18:00 ～ 20:00（受付 17:30～ ）
会　場:国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟　レセプションホール 3

会　費:5,000 円

●NHKハートフォーラム 第9回全国LD親の会公開フォーラム

【最新情報】
発達障害のある人のライフステージを通した支援
～教育から就労まで～

日　時:2010 年 6 月 20 日（日）
10:00 ～16:40 (開場 9:30)
会　場:国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟 小ホール
主　催:NPO 法人全国 LD 親の会、NHK 厚生文化事団、NHK
参加費:無料

企画　◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

特別支援教育が法律に基づいて本格的に実施されてから 3 年が経過しました。体制は整備されつつありますが、質的な充実をどうすすめていくかが、 これからの課題です。

特別支援教育が目指す姿は、発達障害を含め障害のある一人ひとりの子ども達の、自立や社会参加を目指し、一人ひとりのニーズに合わせた乳幼児期から学校卒業後までの一貫性のある支援を行うことであり、極めて高い目標です。これを実現していくためには、長期的展望に立った不断の取り組みが必要です。

そこで今回のフォーラムでは、「発達障害のある人のライフステージを通した支援～教育から就労まで～」をテーマに、最新情報を織り込んだ講演と対談、行政トーク、シンポジウムを企画にしました。LD等の発達障害がある児童生徒に対するライフステージを通した質の高い適切な支援について、参加者の皆さまとともに考えてみたいと思います。

プログラム　◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

【講演＆対談】
＜講演 1＞
上野　一彦　（東京学芸大学名誉教授）
「発達障害のある人のライフステージからみた課題
－学校教育から生涯教育へ－」
対談　丹藤　登紀子（NPO 法人全国 LD 親の会）

＜講演 2＞
望月 葉子
（障害者職業総合センター主任研究員）
「青年期・成人期の課題を考える
ー働いて自立する生活を実現するためにー」
対談 内藤 孝子（NPO 法人全国 LD 親の会）

【行政トーク】
「特別支援教育・発達障害支援行政の最新情報と課題」
斎藤 尚樹（文部科学省 特別支援教育課 課長）
日詰 正文（厚生労働省 障害福祉課地域移行・
障害児支援室 発達障害対策専門官）
山岡 修 （NPO法人全国LD親の会）

【シンポジウム】
「自立・社会参加にむけて、今やっておくこと」
＜教育行政の立場から＞
池山 世津子 （渋谷区教育委員会教育長）
＜教員の立場から＞
梅田 真理 （国立特別支援教育総合研究所）
＜企業の立場から＞
古賀 正道
（富士屋ホテル株式会社 八重洲富士屋ホテル）
＜保護者の立場から＞
内藤 孝子 （NPO法人全国LD親の会）
＜指定討論＞
上野 一彦 （東京学芸大学名誉教授）
＜司会＞
丹藤 登紀子（NPO法人全国LD親の会）
（詳細は同封のチラシをご覧ください）

●青年の交流会

日 時:2010 年 6 月 19 日(土) 11:00 集合
場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 4F 409
テーマ:東京メトロ(地下鉄)に乗って東京の下町を巡ろう

全国の LD 親の会に所属する青年の皆さん、2 年ぶりの東京へようこそ。4 年前の横浜のみなとめぐり、2 年前の原宿めぐりに続き、今回のテーマは下町めぐりです。

まず東京の台所、東京の魚市場、築地。今回の 11 時集合の秘密は、**場外(築地市場)**での昼食。マグロを中心とした丼をリーズナブルなお値段でいただきます。さて、次に向かうは、この日のもう一つの主役**東京メトロ(地下鉄)**について調べられる地下鉄博物館。東京の海側の東のはずれ葛西にあります。ここには東京メトロについて調べられる参加型のミュージアムです。

東京の下町といってもう一つの欠かせないもの、**隅田川**。隅田川を船で下ります。ところで、乗る船の名前は「ひみこ」松本零士先生のデザインです。

船の旅をしながら、今回の旅の最終目的お台場へ。今最も注目のスポットを見学します。お台場で何を見学するかは未定です。皆さんが行きたいところを考えておいて下さい。最後は、ゆりかもめで新橋へ出て、日本で最初の停車場の跡地の見学をして解散後、**希望者のみ懇親会**になります。皆さんと会えるのを楽しみにしています。

（申込等の詳細は同封のチラシをご覧ください）

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

●第 5 回理事会報告

開催場所:青少年サポートプラザ(県立青少年センター別館)「活動室2」
開催日時:平成22年2月27日 20:30－21:00
出席者:大曲 千代子・丹藤 登紀子・東條 裕志・内藤 孝子・山岡 修

[審議事項]

第 1 号議案 NPO法人全国LD親の会 第 4 回役員会における審議結果の承認
第 4 回役員会における審議結果を審議し、これを承認した。

(決議事項)

- NPO 法人全国 LD 親の会第 3 回総会の招集
- NPO 法人全国 LD 親の会平成 22 年度事業計画及び予算(案)
- NPO 法人全国 LD 親の会加盟に関する事項(入会申込書、入会金、会費)
- NPO 法人全国 LD 親の会顧問の就任 上野 一彦 先生(東京学芸大学名誉教授)
- NPO 法人全国 LD 親の会加盟団体への書籍の贈呈
- 連携機関の加盟
  (継続:日本LD学会、日本障害者協議会、日本発達障害ネットワーク 全国病弱・障害児の教育推進連合会
  退会:障害者放送協議会)
- 日本発達障害ネットワーク 理事の推薦(山岡 修理事)

発達障害児のためのサポートツール・データベース事業

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

日本財団の助成を受けて、「発達障害児のためのサポートツール・データベース事業」に取り組んでいますが、2009年度の事業内容を、「発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及」として、日本公益図書館（http://npil.canpan.info/about.html）に成果物登録・公開しました。2年目の事業継続も決まり、2010年4月3日(土)には、2010年度第1回目の運営会議もおこないました。

以下に、2009年度の事業内容と2010年度の予定を報告します。

1. 教材・教具、実証データの公募

2009 年度は 2 回公募審査委員会を開催し、11 点のサポートツールをデータベースに追加掲載しました。

●第1回公募審査会　2009 年 9 月 5 日(土)

(1)きこえとことばの教材集
　区分:国語、対人関係・社会性

(2)持ち方補助具『Q リング』
　区分:国語、運動と姿勢、日常生活

(3)ソーシャルスキル課題集(1)こんな時どうする？

(4)ソーシャルスキル課題集(2)こんな時どんな気持ち？

(5)ソーシャルスキル課題集(3)

(6)ソーシャルスキル課題集(4)お悩み相談室
　区分:対人関係・社会性

(7)感情ビンゴ・コミュニケーションビンゴ(BASIC)
　区分:対人関係・社会性

●第 2 回公募審査会　2010 年 1 月 30 日(土)

(1)発達障害児支援ツール　RAINMAN3
　区分:算数　量と測定　　時刻・時間
　区分:行動　不注意　　プランニング・実行機能

(2)よめるかける　ABC英語れんしゅうちょう
　区分:その他の教科　　読む・書く

(3)ひらがな学習ソフト「ひらがなの森　ver.1.0」
　区分:国語　　読む・書く

(4)英語学習ソフト「英語の森　ver.1.0」
　区分:その他の教科　英語　　読む・書く

2010 年度は、3 回(7 月・12 月・2 月)の公募審査会を予定しています。

2. データベースへのサポートツール掲載追加

2009 年 4 月時点で 440 件のデータベース掲載数を、3 年間で 1,000 件へと充実させる計画ですが、2009 年度は、11 月に 9 件、3 月に 197 件を追加しました。

(区分 1:国語 48 件、区分 2:算数 18 件、区分 3:その他の教科 10 件、区分 4:運動と姿勢 54 件、区分 5:日常生活活動 17 件、区分 6:行動 32 件、区分 7:対人関係・社会性 27 件、合計 206 件

2010 年度も公募によるサポートツールも含め、200 件程度追加していく予定です。

3. 新規サポートツールの開発

データベースに掲載されている「遮蔽板」と「カットアウトテーブル」を段ボール素材で開発中です。段ボールで作る利点として、

・個々のニーズに応じたサイズで作ることが簡単である。
・軽いため、持ち運びが楽である。
・安価で提供できる。

といった点が挙げられます。実証を重ねて、更に改良を加えていく予定です。

4. サポートツール全国キャラバン 2009

「教材教具研修会」

多様なニーズを持つ発達障害のある子ども一人ひとりにあわせて、教育現場や家庭生活における教材・教具の使い方の工夫とサポートの仕方を検討する研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」を全国各地で開催しています。

いずれの会場も、特別支援教育士スーパーバイザーや特別支援教育や子どもの発達に関して専門家として関わっている作業療法士の講演に加え、ワークショップも行います。子どものプリントの間違え個所や姿勢などから、子どもの特性を分析し、具体的な支援を考えていく内容の研修会です。

2009 年度は、下記の 2 か所で行いました。

●2009 年 11 月 1 日(日)　新潟市総合福祉会館
　共催:「新潟いなほの会―発達障害児者親の会―」
　参加者 71 名。

●2010 年 2 月 21 日(日)
　佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター　アバンセ
　共催:「元気塾」親の会(佐賀県発達障がい児・者の会)
　参加者 88 名。

＊＊＊ 2010 年度は下記 3 会場で開催します。＊＊＊

●2010 年 5 月 30 日(日)10:00～16:30(9:30 開場)
　会場:秋田県ゆとり生活創造センター　遊学舎
　共催:秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」

●2010 年 11 月 21 日(日)10:00～16:30(9:30 開場)
　会場:ソフトピアジャパンセンター
　共催:岐阜県LD親の会「れんげの会」

●2011 年 2 月 6 日(日)10:00～16:30(9:30 開場)
　会場:あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
　共催:「あおぞら」

詳細は、NPO法人全国LD親の会のHPに掲載します。

全国LD親の会設立 20 周年記念フォーラム

発達障害者支援におけるNPO・親の会等の役割 ～全国LD親の会のこれまでとこれから～

日　時: 2010 年 2 月 28 日（日） 13:00 ～ 15:45
会　場: 横浜市社会福祉センター　4Fホール

当日、チリの大地震の影響により津波警報が出たことで、JR根岸線の桜木町―大船間が運休になるなど交通機関の混乱により、参加者数は申し込み数より減少してしまいましたが、親の会 47 名、一般 59 名、来賓 5 名の合計 111 名の参加がありました。

まず、内藤理事長からの開演挨拶、その後山岡理事より「全国LD親の会のあゆみ」について解説がありました。1990 年 2 月に発足した全国LD親の会の 20 年の歩みを振り返り、特別支援教育や発達障害者支援の進展の中で、当事者団体が果たしてきた役割を話してもらいました。

記念講演として上野一彦先生（東京学芸大学・名誉教授、一般社団法人日本LD学会・理事長）にご登壇頂きました。「特別支援教育への提言～全国LD親の会の歩みとこれからの課題～」と題してのご講演で、「すべてはLDから始まった、常に親の会がその核となった」という言葉からスタートし、歴史を振り返りながら先生が常に親の会の側にいて下さったことを改めて感じ、心が熱くなりました。

神奈川新聞　第3種郵便物認可　2010.1.16

学習障害どう支援

28日横浜でフォーラム　LD親の会が20周年

ことし発足20周年を迎えるNPO法人「全国LD親の会」（本部・東京）が28日、横浜市社会福祉センター（中区桜木町）で記念フォーラムを開く。発達障害という言葉が知られていなかった時代、親たちが相互に助け合い、政策提言や教材開発などを手掛けてきた同会の歩みを振り返るとともに、今後果たしていく役割について語り合う。

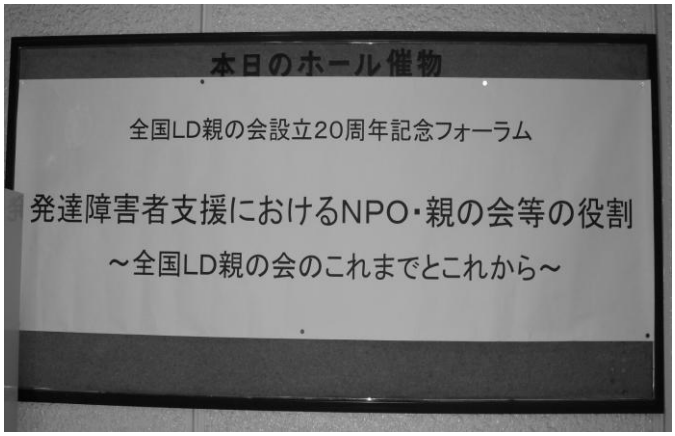
「学習障害（LD）」は、「基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すさまざまな状態」（文部科学省）と定義されている。

同会は、LDの子どもを育てる親たちが、よりよい成長を願い、教育・生活支援の制度創設などを各方面に働き掛けようと設立された。

フォーラムでは、特別支援教育を専門とする上野一彦・東京学芸大名誉教授が基調講演するほか、親の会メンバーや文科省の石塚謙二・特別支援教育課調査官らが「発達障害者支援における親の会やNPOの役割」と題し、議論を展開する。

同会副理事長で「神奈川LD等発達障害児・者親の会 にじの会」で活動する丹藤登紀子さんは「親が協力し、社会に働き掛ける役割は今後も重要です。これからを支える若い保護者の方々とともに、他団体や行政などと、連携・協働のあり方を考えていきたい」と話している。

午後0時50分から。申し込み・問い合わせは、メール（jimukyoku@jpald.net）、ファクス03（6276）8985。



その後、石塚謙二氏（文部科学省特別支援教育課・特別支援教育調査官）より「特別支援教育の動向」と題してご講演を頂きました。特別支援教育制度の現状と取り組みの内容でした。教育基本法（H18・12・22 施行）の中で「国及び地方公共団体は障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない」とありますが、親も行政の動きを知る事で地域に大きく声を発信していけますし、その力を養っていかなければならないと感じました。

休憩をはさんで、上野先生、石塚氏、内藤理事長、山岡理事に再度ご登壇頂き「発達障害者支援における親の会やNPOの役割～これまでとこれから」をテーマにトークセッションを行いました。

① 特別支援教育への転換の流れ、転換点について
② 親の会の役割について
③ これからの発達障害支援の課題と親の会やNPOが果たす役割について各氏にご意見を求めました。

激動の 20 年間を、時折裏話を交えながら話して頂き、上野先生からは「親の会から背中を押されてここまできた」「子どもたちが豊かな人生を送ることが大きな目的」など温かい言葉をいただきました。また石塚氏からの「オールジェネレーション対応の親の会でいてほしい」のアドバイスに身が引き締まる思いをしました。「対立となれ合いからは何も生まれない」というお二人の言葉にも共感しました。お二人から「内藤さん、山岡さんが果たしてきた役割は大きい」と言って頂きましたが、確かに全国LD親の会を引っ張ってきた二人を初め諸先輩方の功績は絶大なもので、一人の親として感謝の気持ちでいっぱいです。

立場は違いますが、同じ時代をスクラム組んで過ごしてきた同志の会話はとても自然で、会場からも、笑いや頷きが多く見られました。多くの理解者や支援者がいたからこそ親のパワーが生きてきたのだと感じ、今後も良い関係を多くの方と築いていかなければと思いました。

今回のフォーラムは「参加者とともに考えていきたい」といったコンセプトがありました。参加者の皆様の声を載せさせて頂きます。

●アンケートから（抜粋）

・講演も先生方が親の会を大切にして下さる事が伝わる内容でジーンとしました。また資料もわかりやすく、すばらしい内容でした。（保護者、会員）

・今、目の前にいる子どもの困っているところをどうするかばかりにとらわれていましたが、法律や学校教育、子どもをとりまく環境などの動向にも目を向けていかないと、我が子の困っているところを手助けできないと分かり、目からウロコが落ちるようでした。（保護者、会員）

・発達障害者支援法は施行されていますが、市や学校により温度差がありすぎると感じています。トークセッションで、この温度差は私たちがなくしていかないといけないと感じました。支援法まで成立させて下さった先輩がたのように。（保護者、会員）

・今後の活動の在り方について色々と考えさせられました。今までの基盤があるからこそ、これからの事が分かりました。（保護者、会員）

・発達障害の子どもたちへの教育が上手くいくと学力が向上する・・とても良く分かります。実際子どもたちと接しているとスキルが役立ってきます。今回色々な立場の人々がスクラムを組んでいることが大切なことだと思いました。（教育関係）

・親の会活動が行政機関と良い関係を作っていらした好事例だと思います。今後もより一層の活動の充実とご発展をお祈りします。（行政関係、教育）

・本日は全国LD親の会の開催でしたので、いたしかたないのですが、地域の中で各地域にある親の会と新たに不安や悩みを持っている親へのアプローチの方法についても、これまでの経験を伝えて頂けると最高でした。行政にいると会へのつなげ方について、決まりごともないので、その場その場でやっているのが現状です。（行政関係、福祉）

・もっともっと発達障害について学ばなくてはと思いました。（一般企業）

・発達障害者へのフォーマルな部分への支援の重要性を理解した。（大学生）

・時代の流れ、ニーズと親の会の活動がうまくマッチして活動が広がったことが良く分かりました。特別支援のシステムはまだまだ現実に完璧とはいかないですが、いろいろな人的リソースを活用して子どもたちにとって良い社会となりますように・・。（臨床心理系大学院生）

「設立以来、任意団体として活動してきましたが、2008 年 10 月に、特定非営利活動法人全国LD親の会として新たにスタートしました。法人化したことで、公の組織として社会的な認知を受け、その運営においても、常にきちんとした説明責任が求められるようになりました。「わが子のために・・」と始まった親の会ですが、これからは社会的な責務を自覚しつつ、原点を忘れず、LDなどの発達障害のある人の人権が守られ、生き生きと暮らすことのできる社会の実現を求めて活動していきたいと思っています」という内藤理事長の言葉の重みを感じながら、今後親の会の果たすべき役割や協働の重要性を再確認することができました。記念すべきフォーラムを横浜で開催できたことを嬉しく思っています。ありがとうございました。

（丹藤　登紀子）

●懇親会

20 周年記念フォーラム終了後、同センター10 階「エイチバイスリー」にて懇親会を開催いたしました。

当日は関東ブロックの親の会のメンバーを中心に 45 名の参加があり、フォーラムの余韻を残しつつ懇親会がはじまりました。

内藤理事長の挨拶の後、東京学芸大学名誉教授で弊会顧問でもあります上野一彦先生と文部科学省特別支援教育課の斉藤尚樹課長にご挨拶をいただきました。ほかにも文部科学省からはフォーラムにご登壇いただきました石塚調査官や樋口調査官、JDDネットからは氏田副代表にご出席いただきました。氏田副代表には乾杯の音頭を取っていただき、共に歩む仲間として激励をうけました。

各テーブルでは食事をしながら我が子のこと、親の介護、会の運営、思い出話など話しは尽きず、予定していた2時間はあっという間に過ぎてしまいました。久しぶりに会ってもすぐに打ち解け、話がはずむ、これが親の会の「仲間」の魅力かなと思いました。 6 月の総会でまた皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

（大曲　千代子）

発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業(文部科学省)

「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」

NPO法人全国LD親の会では、文部科学省から、平成21 年度「発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業」の委託を受け、特別支援教育支援員の養成、保護者・学生等のボランティアの養成を行うことにより、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある幼児児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを目的とした事業に取り組んだ。

1. 事業テーマ

特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業

2. 事業の内容

特別支援教育支援員の資格要件・資質、養成や研修の実施については、実施主体である市町村に委ねられており、そのバラツキや学校現場での混乱等も指摘されている。一方、今後特別支援教育を推進していくためには、保護者・学生等のボランティアの育成・活用も大切である。

そこで、本事業では特別支援教育支援員やボランティア支援員の養成を行い、特別支援教育現場への市民(障害のある子どもの保護者を含む)、学生等の参加を促すことにより、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある幼児児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを目的とする。

また、本事業の推進にあたり、JDDネットの加盟団体やその他関係団体との連携を図ることにより中央や各地域におけるNPO等の関係団体との連携・協同を図る。

[養成する支援員の種類、講座]

① 学習支援員養成講座

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、学習支援、保護者に対する相談支援が行える者。

資格要件:教職経験 2 年以上ないし、同等の経験を有する者。

② 支援員(介助員)養成講座

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者。

③ ボランティア支援員養成講座

特別支援教育現場における学校支援ボランティア(有償・無償)等として、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する補助的な支援、地域における療育機関での補助的な業務、保護者等に対する相談支援が行える者。

1 年次の取り組み(結果)

資格要件検討、養成講座の体系・カリキュラムの検討、シラバス(19 科目)作成を行い、東京都渋谷区教育委員会と提携し、上記の学習支援員、支援員の養成講座を試行実施した。

なお、養成講座のカリキュラム検討にあたっては、渋谷区の学校長に対する支援員に求める資質や養成講座の内容の希望等のアンケート実施、障害者団体、心理・OT・PT・ST 等の職能団体、校長会、肢体不自由特別支援学校長経験者等からなる外部諮問委員からもご意見を聴取した上で策定した。

これらを踏まえ、平成 22 年 1～2 月に渋谷区で、30 名の受講生を対象に養成講座を試行実施した。受講者から養成講座受講後にアンケート調査を行い、養成講座の効果測定や、以後の改善に生かす予定。

受講生30名のうち、8名は、渋谷区での現職支援員(無償)、22名は近郊の親の会・一般から募集(約40名の応募者の中から選抜)

①学習支援員コース:17.5 時間(3 日)＋学校見学 4 時間

19 名うち 8 名は、渋谷区の現役の学習支援員

(渋谷区では「学習指導員」と呼称)

②支援員コース:11.5 時間(2 日)＋学校見学 4 時間

11 名

【養成講座】

第1日 1月23日(土) 9:00-16:15

＜学習支援員・支援員コース共通＞

	科目
-	オリエンテーション
1	特別支援教育支援員としての業務や心構え 吉田 昌義(帝京大学教授)
2	特別支援教育概論 上野 一彦(東京学芸大学名誉教授)

3	主な障害の特性の理解 篁　倫子(お茶の水大学大学院教授)
4	学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方 漆沢　恭子(植草学園短期大学教授)

第2日　1月30日(土)9:00-17:00
＜学習支援員・支援員コース共通＞

5	社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 増田　博信(ときがわ町立都幾川中学校)
6	子どもへの対応の基本 両川　晃子(信州大学附属病院)
7	障害のある子どもの心理 両川　晃子(信州大学附属病院)
8	自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 上原　芳枝(リソースセンターone)
9	ロールプレイイング、グループ討議 上原　芳枝(リソースセンターone)
-	終了式(除く、学習支援員コース)

第3日　2月13日(土)
学習支援員コース　9:00-16:30

10	学習面の困難とサポート方法①国語 海津　亜希子(国立特別支援教育総合研究所)
11	学習面の困難とサポート方法②算数 大城　政之(国立特別支援教育総合研究所)
12	ロールプレイイング、グループ討議 梅田　真理(国立特別支援教育総合研究所)
-	終了式(学習支援員コース)

第4日(日程適宜)8:30-12:30

13	学校見学(半日　3-4人)　2月17、22、23、24、25日 渋谷区立の小学校　5 校

【感想】

・(支援員が)公務員に順ずる身分ということを初めて知った。
・困難には、様々な要因がからんでいることの共通認識をもつ上で有用に感じた。
・学級担任との連携を大切にし、周りの児童との信頼関係も築きつつ、学級をささえていける支援員を目指したいと思った。
・生徒の実態と特性を把握し、達成感を高めることのできる効果的な指導の手立てを理解できた。
・ロールプレーイングが体験できたこと、周囲の方と意見交換できたこと、とても有意義な時間だった。
・疑似体験をすることで、より子どもの気持ちに近づけ学ぶことが多かった。
・ワークショップによる体験は能動的に参加できよかった。具体的な指導、支援の方法もとても参考になった。
・先生方の持ち時間が少なく残念でした。具体例などじっくり聞く機会をもっていただけるとありがたい。
・毎回新しい情報や先生の考え方を入れるために、むずかしいのかもしれませんが、講義資料は、「本」に近いものにしても良いのではと思った。
・実際の現場での実情を伺い、さらに支援員さんの支援の様子も見せていただき、とても参考になった。講義だけでは得られない体験をさせていただいた。

今年度は、試行分として短期間での実施としたこともあり、個々の科目の時間は短く、「もう少し時間がほしかった」という声もあった。一流の講師陣による体系だった講座を実施できたので、受講生からは高い満足度・高い評価をいただくことができた。

また、渋谷区教育委員会からも、体系だったカリキュラムとシラバス、シラバスに基づいた講座内容、一流の講師陣で、極めて効果的な研修であり、「区単独では、これだけの研修の実施は無理であり、ありがたかった」という評価をいただいた。

3. 今後の課題

1 年次に、基本シラバスの策定や養成講座を試行実施し、本事業の基礎的な研究成果は得られたが、「ボランティア支援員」(学校支援ボランティア)のカリキュラム研究、養成講座の試行については、未着手であったので、2 年次に取り組む予定。

今後の課題は、研修体系の標準化、全国数か所における研修会の実施 、特別支援教育支援員、ボランティア支援員養成研修用のテキストの策定などである。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

近畿ブロック紹介

これが自慢です！

困り感を抱える子を支援する親の会/らっきょうの花

らっきょうの花は、LD・ADHDおよびアスペルガー等の高機能発達障害、その周辺児、並びに、診断には至らないものの、学校並びに社会において、支援を必要とする児童・生徒、そして社会人となった当事者を支援したいという思いから、2006 年 8 月より『プチたんぽぽ』という名称で勉強会を始めたのがきっかけで誕生した親の会です。2007 年 4 月に『らっきょうの花』として正式発足し、同年 6 月より全国LD親の会に加入致しました。現在会員は総数で 45 名です。

現在、隔月 1 回の定例学習会、毎月の茶話会、年 1 回『わくわくキャンプ』と題し子どもの活動を行っています。定例学習会には、毎回様々なジャンルの先生方にお越し頂いており、過去には、品川裕香先生、小栗正幸先生、今年度は、長年発達障害の子どもさんと向き合って来られた精神科のドクターの体験談や、当事者の体験談、薬剤師の方からコンサータについて…等々お話頂きました。会員には、教員等の専門家であるサポート（賛助）会員も多く在籍しており、名誉スーパーバイザーとして小栗正幸氏（LD学会・特別支援教育士SV）、スーパーバイザーとして原田豊氏（鳥取県精神保健福祉センター所長）に協力を頂いています。今年 2 月 27 日には、NPO法人鳥取県自閉症協会とLD親の会ラビットの集い、県や市の各団体と協力し『世界自閉症啓発デーin鳥取』を開催。当日は会場に入りきれない程の来場者をお迎えする事ができました。日本一人口の少ない鳥取県ではありますが、専門家の方々や行政、各親の会と連携しながら、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

広島発達障害親の会「明日葉」

1992 年に、広島 LD 親の会「明日葉」として発足し、2007 年に名称を広島発達障害親の会「明日葉」と改め、広島県西部を中心に活動しています。現在会員数は約 60 名です。

主な活動は、①小学生・中高生・青年の年齢ごとに分かれている“本人参加のグループ活動”、②会員（親）への相互支援活動、③社会に対して発達障害への理解と支援を求める啓発活動の 3 つです。

グループ活動の歴史は長く、明日葉の活動のメインともいえる活動です。学校にはなかなか行けないけれども、グループ活動で仲間と会うのを楽しみにしているという子どもがいることからわかるように、気の合う仲間との集まりが子どもたちの元気の源になっているようです。

グループ活動や、毎月行われる運営委員会の際には、保護者同士で情報交換をしています。先輩のお母さんからのアドバイスは、貴重な道しるべです。また、他では共有できない思いを話せる場を持つことは、日々の子育てに携わる勇気を与えてくれます。

啓発活動として研修会や行政訪問などを行ってきましたが、近年は発達障害の認知度が高まるにつれ、自治体の支援検討会議等に参加する機会も増えました。このような会の外への働きかけは、ハードルの高い活動ですが、子どもたちの未来のために今後も地道に続けていこうと考えています。

あおぞら

「あおぞら」は発達障害とその周辺の子どもたち（者）への理解と支援を社会に広げ、彼らが安心して自立できる社会を目指し、まずは親同士の交流、学習を行い、親が力をつけて周囲にも働きかけていこうという目的で2006 年 7 月、徳島で発足しました。2010 年 3 月現在で正会員 45 名、サポート会員 22 名になりました。

定例の活動としては、毎月 2 回のおしゃべり会、毎月の会員間の学習交流会、年に数回のセミナーなどを開催しています。2009 年から徳島県との共催事業として上記の活動の一部を開催するようになり、一般の方々にも「あおぞら」の名前を知っていただく機会が広がりました。

おしゃべり会では会員外の保護者の方々とも日頃の思いを語り合い、学習交流会では現役の校長先生を招き特別支援教育のQ&Aセミナーをしたり、徳島県での就労の現状を勉強したりと、日頃保護者が抱える問題を少しでも出し合い解決に導ける内容の会を行っています。セミナーでは専門家の方を招き、この 1 年は就労支援、視覚認知の弱い子どもへの配慮と指導、非行化予防、LD当事者の視点から見る特別支援など、保護者だけでなく広く教員、保育士、療育関係者や一般の方々にも学んでいただける場を提供しました。

今後も「あおぞら」は地道で着実な活動を続けていきたい、会員が協力し合い学びあう会でありたいと考えています。

九州ブロック紹介
これが自慢です！

熊本ＬＤ児・者親の会「めだか」

私たち「めだか」は、LD児・者及びその周辺の子どもたちを持つ親と、当会の趣旨に賛同してくださる方々との集まりで、平成 4 年に発足しました。

情報交換や親同士の交流を図り、子どもの幸せを願い、支え合っています。

主な活動としては;

★定例会（学習会、情報交換）

★会報発行（めだか通信）

★こどもの療育（めだかグループ：ソーシャルスキル訓練・製作活動・調理実習など。

スターチルドレン：中学生以上の子ども達の仲間づくりの場）

★レクリェーシヨン（クリスマス会など）

★サークル活動（カラオケ・ボウリング・料理など本人、兄弟姉妹、保護者）

★グループ活動（それぞれの年代のニーズに合った学習会などを行う）

幼児「キッズグループ」　就学前の子ども達が対象の学習会等運営。

小学校グループ　小学生対象の学習会等運営。

中学校グループ　中学生対象の学習会等運営。

高校生・青年グループ　高校生・卒業以上の子ども達が対象の学習会等運営。

★講演会その他の活動（LDの理解や啓発、行政機関への働きかけなど行う）

今日の情報化社会、いずれも求心力が課題です。

宮崎ＬＤ・発達障害親の会「フレンド」

こんにちは！　宮崎の「フレンド」も、早いもので 15 周年を迎えることになりました。“やっとわかりあえる仲間に出会えた”という想いを込めてつけられた「フレンド」ですが、ここ数年は特定の人だけが活動している状況でした。

ところが！　この 1～2 年に入会された若いママさんたちが、新しい風を運んできてくれました。事務局を引受けてくれたり、様々な相談事や希望を打ち明けてくれたり･･･そのおかげでペアレントトレーニングを実施することになりました。やったね☆

もっともっと「フレンド」を増やしていき、”ひとりじゃないよ”と多くの人たちを勇気づけていける力になればと思っています。

また、もう一つの柱である ”こどもクラブ” においては、毎回多くのボランティアの学生さんたちが参加して、こどもたちに関わってくれています。こどもたちもボラさんたちも、「楽しい！」と言って笑顔で帰っていき、次回を待ちきれずにいるようです。低学年のこどもたちが中心なので、今後は高学年～中・高生、社会人も充実した活動ができて、みんな笑顔で集まれるといいなぁと思います。

”陸の孤島　宮崎”の親の会が、今、「どげんかせんといかん」と、がんばってネットワークを広げつつあります。こども達の笑顔と未来の為にファイト！

鹿児島発達障害児親の会「てんがらもん」

「てんがらもん」は、平成 8 年に発足しました。「LD」に関心を持つものが集い結成した会ですが、LD、ADHD などと診断された子どもの親だけでなく、同じように行動や適応に関する問題をもつ子どもの親や関係者が集まり、子どもたちが心身ともに健やかに成長することを願いながら活動しています。

鹿児島では、「活発な子ども、目を引く子ども」の事を「てんがらもん」と言います。

発達障害という言葉も無かったずっと昔。郷里の先人は、この変わった子どものことを「天からの者→てんがらもん」と名づけました。天からの子どもですので、おろそかに扱うことはできません。親も地域も、無意識のうちに支援や配慮をして「てんがらもん」を見守り育ててきました。特別支援という言葉も無かったずっと昔の話です。この先人の想いを受け継いで、てんがらもん達のサポートができたらと私達は考えています。

私達「てんがらもん」は、仲間づくりが苦手な子どもたちにとっては、キャンプ等の交流や経験を通して人とのかかわりを学びながら育ち合える場であり、親や関係者にとっては、子どもたちの社会的自立を支援すると同時に、悩みを語ったり、情報交換をする場になっています。のんびりした会ですので、がんばり屋さんでなくても安心して参加できることが自慢？です。

長野県ＬＤ等発達障害児者親の会「よつ葉の会」が設立されます！

2008 年 12 月のNHKハートフォーラムの開催を機に、地元の学校の先生や山岡(理事)、沼田さん(全国LD親の会監事)で支援を行い、地元の有志を中心に準備を進めてきましたが、いよいよ 5 月 22 日に親の会を設立することが決まりました。

◆設立総会 ：2010 年 5 月 22 日(土) 11:00～

◆設立記念講演会 ： 同日 13:30～16:30

会場:長野市ふれあい福祉センター 5 階ホール
(長野市鶴賀 1714-5 長野市役所東隣)

「発達障害に対する支援について
～親の会に期待すること」
講師 高橋 知音先生(信州大学教育学部准教授)

「今、親に出来ること
～発達障害の心理的擬似体験も交えて」
講師 両川 晃子先生(信州大学医学部付属病院
精神科心理士)
山岡 修(全国 LD 親の会理事)

【事務局】

長野県 LD 等発達障害児者親の会「よつ葉の会」
〒381-2221 長野市川中島町御厨 220-4 藤村方
Mail アドレス naganoyotsubanokai@yahoo.co.jp
メールボックス
〒380-0813 長野市鶴賀 1714-5
長野市ボランティアセンター内
長野県発達障害児者親の会～よつ葉の会～

2008 年 12 月の呼びかけから、1 年半。有志数名を中心に準備を進めてきましたが、ようやく設立が決まりました。今は、月に 1～2 度集まり、設立総会に必要な事項の確認や作成に取り組んでいます。また、設立記念講演会や入会を呼びかけるチラシを作成し配布を開始しました。また、地元の教員の方や専門家の方がメーリングリスト等で参加の呼びかけを行って下さっています。

長野県には以前、3 つのLD親の会が全国LD親の会に加盟していましたが、徐々に減り数年前に加盟団体がなくなってしまいました。長野県は北信・中信・南信の 3 地域に分かれており、長野市は北信に位置しており、全県をカバーすることは難しい面もありますので、当初は北信中心に活動を行う予定です。

設立後に全国LD親の会の正会員として加盟を希望していますので、近県の会の皆さまの支援をお願いします。

(山岡)

親の会設立準備を進めています！ 和歌山県 大分県

●和歌山県親の会設立準備会

和歌山県での親の会設立に向けて、準備会を重ねています。2009 年 9 月 13 日(日)のNHKフォーラムでの呼び掛け以降、12 月 6 日(日)の「保護者による子育てトーク＆座談会」開催を経て、2 月・4 月と概ね 2 カ月ごとに集まりを持ってきました。

2010 年 2 月 11 日(木・祝)の県民交流プラザ和歌山ビッグ愛での集まりには、通級指導教室の先生方もご協力くださって、参加者がお互いの状況などを話し合う交流の場になりました。和歌山の保護者中心に準備会を進めていくことになり、連絡係を引き受けてくださったメンバーが、集まりの場所の確保に動いてくださり、次回から和歌山市三沢町にある中央コミュニティーセンターで、準備会を開いていけることになりました。

4 月 11 日(日)には 13 名の保護者が集まり、子どもの友達関係のことや、遊びと勉強の切り替えの方法など、普段の子育ての話に加え、今後の準備会の持ち方、方向性についても話し合いました。 和歌山の皆さんのニーズに合った勉強会やミニ講演会なども開催できればと思っています。次回は、2010 年 6 月 6 日(日) 午後から、中央コミュニティーセンターで行う予定です。 (井上)

●大分県における親の会設立準備

昨年度は、大分県教育委員会特別支援教育課のご好意により、県内 5 カ所で開催された「発達障がいのある子どもの理解・啓発フォーラム」にて、親の会設立準備会への参加呼びかけのちらしを配布していただくことができました。そのうち、豊後大野市と国東市でのフォーラムでは小林会長(北九州LD親の会“すばる”)や九州ブロック担当理事が参加し、直接呼びかけをしました。おかげさまで、数名の賛同者があり、今後、設立準備会開催にむけて連絡を取り合うことになりました。

今年度は、九州ブロック各親の会の保護者の体験談などを話していただく、「保護者の保護者のための子育てトーク」と題した座談会を大分市や別府市を中心に開催いたします。保護者同志のざっくばらんな話の中から、子育てのヒントや情報を見つけていただいたり、身近な心配や疑問を相談したりして、交流の場にしたいと思っています。

今後も大分県教育委員会など関係機関のご支援をうけながら、保護者の皆さんが集い、励ましあい、仲間作りができるよう、親の会設立の準備を進めていきます。

(大曲)

●教育から就業への移行実態調査Ⅲ アンケートご協力、ありがとうございました

2009 年 11 月から 12 月にかけて、各親の会の 18 歳(高卒相当)以上の子どもを持つ会員(保護者)とその子ども(本人)を対象に「教育から就業への移行実態調査Ⅲ」を実施しました。

2005 年に施行された発達障害者支援法により、様々な分野で理解や支援が進み始めましたが、実態はどのように変化したのか、今回の調査では、2003 年、2006 年におこなった実態調査をベースに、上乗せした調査を実施させていただきました。おかげさまで、会員(保護者)533 人(回答率 54.0%)、子ども(本人)487 人(回答率 49.3%)の回答をいただくことができました。

ありがとうございました。深く御礼申し上げます。

現在、回答のデータ入力をすすめているところです。保護者の回答は約7割、本人の回答は全部入力が終わりました。2010 年 6 月の総会には、速報をお知らせしたいと考えています。その後、2003 年調査、2006 年調査と比較して分析し、2010 年度中に、報告書としてまとめる予定です。

発達障害のある人が生き生きと暮らしていくためにさらにどのような支援が必要なのか、移行期、成人期の具体的な支援について根拠(エビデンス)を示していくことが求められています。 これまで全国 LD 親の会が行った調査結果も国等への施策提言に極めて効果的でしたので、今回皆さまからいただいた貴重な内容を、子ども達のために生かしていきたいと思っております。 (内藤)

日本発達障害ネット(JDDネット)の活動から

●国会議員訪問

2005 年 4 月に発達障害者支援法が施行され、発達障害者に対する支援は格段に進歩しました。施行から 5 年。この間、「発達障害の支援を考える議員連盟」(超党派)に後押しいただき、発達障害者への支援は、教育、福祉、医療、労働の各分野で着実に進んできました。

昨年の政権交代により、民主党が政権を担うことになりましたが、JDDネットでは、「民主党政権下になっても発達障害に対する取組みが後退しないように」との認識のもと、障がい者制度改革推進本部に要望書を提出(1/22)、福島内閣府特命担当大臣に面会、要望書の提出(2/1)などを行い、ロビー活動を展開しているところです。

その一環として、全国LD親の会では、2009 年 12 月～2010 年 1 月にかけて、各会のみなさまに地元の国会議員を訪問し、発達障害者に対する理解と支援を訴えていただくよう、一斉訪問に取組みました。具体的な要望として、2009 年 12 月に発足した「障がい者制度改革推進会議」での検討に、発達障害の当事者・関係者の参加をお願いしていただきました。この呼びかけに、各会のみなさまが精力的に動いてくださり、訪問、郵送等で陳情していただきました国会議員は 264 人になりました。お陰さまで、多くの議員の方に発達障害者支援について認識いただくことができました。深く感謝しております。

JDDネットの活動に呼応して、各地の当事者団体が動くことで、発達障害者への支援の必要性や、障害者制度における明確な位置づけなど、多くの国会議員の方に伝わったことと思いますし、具体的な動きに結びついたものもある等大きな効果がありました。また、今回の訪問活動で、地元の国会議員、自治体の議員の方も関心をもっていただくことができましたことは、地域での活動にとっても有意義だったと思っています。

(内藤)

●日本発達障害ネットワーク主催 発達障害啓発週間 2010 イベント

2007 年に国連によって 4 月 2 日が「世界自閉症啓発デー」に定められたのを機に、わが国では、政府および関係団体で、4 月 2 日からの一週間を「発達障害啓発週間」と定め、発達障害について広く理解と支援を呼びかける活動を行っています。

今年度は、日本発達障害ネットワーク(JDDネット)主催で下記フォーラムが開催され、全国LD親の会も加盟団体として参加しました。

◎ 発達障害啓発フォーラム in 東京 参加者:302 名
発達障害を巡る最新動向とこれからの課題 ～発達障害者支援法施行 5 年目の現状と課題～
日時:4 月 4 日(日)10:00-16:10 会場:日本消防会館(ニッショーホール)

◎ 日本発達障害ネットワーク公開フォーラム in 神戸 参加者:280 名
発達障害者への豊かな支援を目指して ～効果的で根拠に基づいた指導・支援の方策～
日時:4 月 4 日(日)10:30-16:00 会場:西山記念会館

(内藤)

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

01 月 14 日　かけはし 65 号発行
01 月 23 日　特別支援教育支援員養成講座 （第 1 回）（内藤、山岡、丹藤、岩田）
01 月 30 日　特別支援教育支援員養成講座 （第 2 回）（山岡、丹藤、岩田）
01 月 30 日　サポートツール・データベース第 2 回審査会（内藤、井上育世）
02 月 4－6 日　アメニティー・ネットワーク・フォーラム （山岡、内藤）
02 月 11 日　和歌山県 LD 等発達障害親の会設立準備会（内藤、清水）
02 月 13 日　特別支援教育支援員養成講座 （第 3 回）（内藤、山岡、丹藤、岩田）
02 月 17－25 日　特別支援教育支援員養成講座 （学校見学会）（内藤、山岡、丹藤、岩田）
02 月 21 日　サポートツール全国キャラバン 2009「教材教具研修会」in 佐賀（古賀）
02 月 27 日　第 4 回役員会、第 5 回理事会（横浜：青少年サポートプラザ）
02 月 28 日　特定非営利活動法人全国LD親の会 設立 20 周年記念フォーラム （横浜市社会福祉センター）
「発達障害者支援における NPO・親の会等の役割 ～全国LD親の会のこれまでとこれから～」
02 月 28 日　全国 LD 親の会懇親会 （横浜市社会福祉センター 10F「エイチバイスリー」
03 月 01 日　文部科学省「特別支援教育の推進に関する協力者会議」（内藤、山岡）
03 月 06 日　特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第 2 回拡大委員会（内藤、山岡、丹藤）
03 月 06 日　特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第 4 回実行委員会（内藤、山岡）
03月 09日　日本財団 2010 年度助成決定「発達障害児のためのサポートツール・データベース事業」
03 月 16 日　全国病弱・障害児の教育推進連合会 （新堀）
03 月 17 日　＜総合版＞LD 等の発達障害のある高校生の実態調査報告書を各親の会に贈呈
03 月 24 日　障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究委員会(内藤)
04 月 02 日　世界自閉症啓発デー2010 シンポジウム（丹藤）
04 月 03 日　サポートツール・データベース 第1回運営委員会（内藤、井上育世）
04 月 04 日　発達障害啓発週間 2010 発達障害啓発フォーラム in 東京（山岡、丹藤、新堀、吉田）
04 月 04 日　発達障害啓発週間 2010 日本発達障害ネットワーク公開フォーラム in 神戸（内藤、井上育世）
04 月 06 日　日本財団春の交流会 2010（山岡）

2010 年度会費納入のお願い

LD親の会の会計ご担当者の皆さまへの連絡事項です。
全国LD親の会の 2010 年度の会費に関して、以下の注意事項を参考に振込をよろしくお願いいたします。
今年度より、会員数は **2010 年 3 月末時点**の会員数を使用して下さい。

★会費： **2010 年 3 月末の会員数×1,000 円**
★入金口座： ゆうちょ銀行　口座番号： **10020－98039821**
口座名： **特定非営利活動法人全国 LD 親の会**
カナ表記： トクヒ）ゼンコクエルディーオヤノカイ
★期限： 2010 年 6 月末

（注）
①振込手数料は各親の会でご負担下さい。
②「振込人名」は「県名＋会の名前」を入れてください。また、入金後、なるべく事務局宛に FAX またはメールで簡単に入金のご連絡を頂けると助かります。よろしくお願い致します。
③会の事情で期限内に振込ができない場合には、ご連絡下さい。

連絡先　FAX：03-6276-8985　Email: jimukyoku@jpald.net